

2025年6月23日

ディケンズ・フェロウシップ日本支部ニューズレター

今年の春季総会は6月14日（土）にノートルダム清心女子大学（岡山市）で開催されました。あいにくの雨模様ではありましたが、会場が JR 岡山駅から徒歩圏なのでたいへん助かりました。

今回のプログラムは、登壇者の数こそ少なかったのですが、研究発表、シンポジウムともにとても内容が濃かったです。宮丸裕二副支部長による研究発表は、「自伝」という枠組みを介して『デイヴィッド・コパーフィールド』のデイヴィッドとベンジャミン・フランクリンとの共通点（ひいてはディケンズとフランクリンとのつながり）を探るというユニークなもの。フランクリンとディケンズというのは意外な組み合わせに思いましたが、〈自伝的要素の濃い『デイヴィッド・コパーフィールド』という小説において、ディケンズの自己像の反映は主人公デイヴィッドだけとは限らない〉という主張から論を説きおこした宮丸氏は、ひとつまたひとつとディケンズのダブルの姿を作品から拾いつつ、細部にみられるフランクリンの自伝や格言からの影響を説得力のあるかたちで指摘して下さいました。

ディケンズとその周辺の文学にみられる「恐怖」体験を題材にしたシンポジウムでは、まず筒井瑞貴氏が、John Galt の ‘The Buried Alive’ とディケンズの『二都物語』を中心に、19 世紀人の想像力における「生き埋め」恐怖について詳細な分析を行っていただきました。ぎょっとするような史実の紹介から、社会的な「生き埋め」概念を用いた革命（表象）論に至る刺激的でパワフルな考察でした。続く熊谷めぐみ氏の発表は、「信号手」と「殺人裁判」を取り上げ、〈それらの作品はほんとうに怖いのか？怖いのであれば、それはどのような要因によるものか〉という問いを、語り手に焦点をあてて考察するものでした。語り手をどこまで信頼してよいのかという問題も含め、「殺人裁判」のコミカルな部分や、両作品で語り手が事件に関与する必然性などについて検討しつつ、作品の特異性（怖いというより「変な話」ではないのか？）を際立たせてくださいました。気さくな語り口ながら、作品受容の点で重要な整理と指摘をされたと思います。「閉じ込められる」種類の恐怖を論じた筒井氏の発表と、「（意思疎通から）閉め出される」体験を扱った熊谷氏の発表が相補的關係になっているというチームワークも見事でした。

今回の出席者は30名弱と少なめではありましたが、その分和気あいあいとした雰囲気と一体感がありました。発言もしやすかったのでしょうか、質疑応答の時間も次から次へと手が挙がり、例年以上に活発でした。プログラムから懇親会までやたらと楽しかったのですが、それはノートルダム清心女子大学の場の力によるものもあったかと思えます。教室も食堂も机や椅子、すべての造作が小柄で可愛らしく温かみのある印象でした。そのおかげで参加者間の距離が近くなった気がします。慈愛にみちた聖母マリア様（の像）が見守る素敵な会場をご提供くださり、当日運営にお骨折りくださいました新野緑先生と学生さんたちにこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。そして、当日雨のなか会場までお運びくださった会員の皆様有難うございました。

以下に総会での議事の内容をお知らせします。

審議事項

1. 研究発表〆切の変更について

総会開催時期が秋季（10月）から春季（6月）に移行したにも拘わらず、それに合わせて研究発表応募締め切りの時期を再設定するのを怠っておりました。昨年度、臨時で12月末とさせていただいておりましたが、今回正式に研究発表応募〆切を11月末日までとする提案を理事会からさせていただき、ご承認いただきました。

基本的に研究発表は随時受け付けておりますが、ある年の総会にて研究発表をなさりたい場合、その前年の11月末日までに支部長あて奮ってのご応募願います。

2. 前年度会計報告

前年度会計報告の内容については、既に会員あてメーリングリストにおいてもご確認いただいておりますが、今回総会の場において改めて長谷川雅世財務担当理事ならびに監査の田中孝信先生より口頭でのご説明、ご報告をいただき、ご承認をいただきました。（会計年度と春季総会の開催時期がずれるため、今後もこの方式をとらせていただきます。）

3. 総会動画掲載先について

ウェブ担当の渡部智也氏より以下のような発議がなされました。

日本支部では長年、総会の模様を動画撮影し、その動画を学会HPにアップしてきました。その際、契約しているサーバー容量の関係で、アップの際にはかなり圧縮した（画質を粗くした）動画を上げてきました。しかし、近年はパワーポイントを使用した発表を行われる方も多く、現状の画質だとスライドの文字の判別も殆どできません。そのため動画の画質を良くし、YouTubeに上げてはどうか、というご意見を頂くようになりました。現状YouTubeではアップロードする動画の本数に制限はなく、容量を気にせずにアップすることができるという利点があります。また、以前、コロナ禍において原英一先生にご講演頂いた際、その動画をYouTubeにアップしたことがあり、日本支部としてのアカウントは作成済みです。担当者の作業の手間もあまり変わりません。これらの事情から、今後は動画をYouTubeにアップロードする、という形を取らせて頂ければと思います。

審議の結果、提案通り今後は総会動画をYouTubeにアップロードすることが承認されました。

4. 国際カンフェランス日本開催？

ロンドン本部よりディケンズ・フェロウシップの国際カンフェランスをいつか日本で開催できないかという打診を受けました。協議の結果、理事会では2027年度の夏季（8月下旬）であれば可能ではないかと考えました。開催場所は東京を考えております。ホスト役

を引き受けることになれば、会員の皆様にお力添えをいただくことになるかと思しますので、日本支部の意思を本部に伝える前に、まずは日本支部として2027年度国際カンフェランス開催地候補として名乗りをあげ、本部と連携しつつ、実際に開催可能かどうか検討を始めても良いかどうか皆様にお諮りいただき、ご承認をいただきました。（日本支部の他に有力な候補地が既にあるかもしれず、この承認をもって即座にカンフェランス日本開催に向けて動き出すわけではございません。）

報告事項

1. 編集委員から

『年報』編集委員長の宮丸裕二氏より、会員みなさまに奮ってご投稿をいただきたい旨の呼びかけがありました。

2. 来年の総会について

来年（2026年）の春季総会は西南学院大学（福岡）で6月に開催することを予定しております。日程・詳細については確定次第、皆様にMLでお知らせいたします。

ディケンズ・フェロウシップ日本支部長

松本靖彦

